

平成29年度第4回北杜市図書館協議会会議録

- (1) 会議名：平成29年度第4回北杜市図書館協議会
- (2) 開催日時：平成30年3月5日（月）午後1時30分～午後3時00分
- (3) 開催場所：北杜市金田一春彦記念図書館 SVホール
- (4) 出席者：協議委員 柴山 裕子／山中 長壽／手塚 正子／堀内 直美／
須田 由美子／中山 洋美／金子 朋子／小澤 志保子
小淵沢小図書館司書 五味 富貴子
事務局 坂本図書館長／深澤 寛美・小野 まどか・
相吉 悠（総務担当）／小澤 香奈（明野図書館）／
斉木 紀恵子（むかわ図書館）

- (5) 議題：（1）その他

- 報告：（1）第三次北杜市子ども読書活動推進計画について
（2）平成30年度主要事業(案)について
（3）各館からの報告について
（4）その他

- (6) 公開・非公開の別：公開
- (7) 該当なし
- (8) 傍聴人の数：0人
- (9) 審議内容

議 題

各委員からの質問、意見

委員：先日開催された「第100回記念 大人のための朗読会やまびこ」を聞きに行った。非常に素晴らしく、楽しませてもらった。あれだけのものを一回だけで終わらせるのはもったいないので、目が悪く本が読みづらい、会場まで来られない、といった高齢者等のために、老人ホームや公民館などで朗読会を開催してはどうか。保健福祉推進委員だった時に開催した「はつらつシルバー」は、認知症予防事業のため内容が体操に偏ったが、「笑い」や「聴く」といったことにもつなげられれば良いと思う。

会長：今までに、たかね図書館以外の図書館で数回開催したが、集客が難しく、現在は「まなびの杜」のタレントバンクに掲載して、要望があれば赴く体制をとっている。また、図書館はPRが上手でないので、施設や公民館行

事などにも出張できることを、もっと宣伝すればよいと思う。

事務局：図書館としては、金田一図書館が仁生園で出張おはなし会をしている。また、社会福祉協議会にボランティア登録している団体は、高齢者福祉施設で読み聞かせを行っている。今回のような提案をいただいたことは、「大人のための朗読会やまびこ」の所属団体にも伝えておく。

委員：「第100回記念 大人のための朗読会やまびこ」には、自分が以前所属していた団体も出演していた。図書館利用の減少や学生の活字離れが言われている中、小さなことでも図書館から発信し続ける積み重ねが大切だと、この100回記念に重ね合わせて感じた。

委員：「第100回記念 大人のための朗読会やまびこ」には、自分の母親が聞きに行き、感動したとのことであった。父親は、耳が悪いので、音が関係する行事には参加できない。すべての人にとって良いということはなかなか難しいが、地道に活動し積み重ねていけば、広がりをもたらされるのではと感じた。また、最近、保育現場が非常に忙しく、以前のように、午睡時に昔話を聞かせるような、物語を耳からだけ聞いて想像を膨らませるという活動が減ってきている。素話で、耳から入る情報だけをもとに頭の中で理解を広げるような経験をすることが大切だと考える。図書館でも、おはなし会の中で、映像などは使わず耳からだけで物語を聞くような内容を取り入れてはどうかと思った。

委員：図書館ボランティア活動として、白州町で20年以上に亘り手作り絵本を教えている。昨年、小淵沢町で家庭保育をしているお宅で、自分が作成した絵本を読み聞かせしている。今まで読み聞かせの経験もないが、子どもたちは非常に興味を持って聞き、さまざまな表情や話をしてくる。3歳以下の子どもが本に触れる機会をより多く持てる手伝いがしたいと思った。昨年夏、大きな事故に遭い、約1ヶ月動けずにいたが、読み聞かせの活動を通して、今年はより能動的に活動していこうという気持ちに転換できた。

学校図書館司書：今までこの場で話し合われた内容について、市内各校への報告はしなかったが、昨年、会長から、夏休みに本の紹介をして欲しいとの依頼があり、各校にメールをしたことをきっかけに、報告することとなった。この協議会が学校図書館にとって有効になれば良いと思い、参加し勉強させてもらっている。

(1) その他

会長：3月11日に図書館利用者懇談会が開催される。ここ数年、参加者から図書館利用率や図書費などの数値の推移がわかる資料の提出を求められてい

るので、毎年度作成している事業報告書を必ず用意してほしい。

事務局：以前協議会委員をしていた利用者から、予算がわかる資料の提示を求められており、事業報告書を提出する。何年度分用意するのが適当か、お諮りしたい。

委員：3年度分くらいあれば、推移がわかると思う。

会長：ここ2年連続で資料提出を求められたので、3年度分は提出されていないことを考えれば、4～5年度分必要ではないか。3年度分は事業報告書で、それ以前については予算や職員の推移などがわかれば抜粋でもよいと考える。

委員：全員分用意するのも大変だし、必要としない人もいるかもしれないので、希望者にのみ配布するのも一つと考える。

事務局：検討する。

委員：参加者は何人くらいか。

事務局：図書館側からは12名、利用者は昨年は20名程度であったが、例年数名程度である。

会長：参加者が少ないので、ここ数年は講演会とセットで実施し、多少参加者が増えた。

報告

(1) 第三次北杜市子ども読書活動推進計画(案)について

*資料をもとに事務局より説明。

会長：5年ごとに策定されてきたが、今まであまり周知されてこなかったので、出来るだけ多くの人に知ってもらうため、ダイジェスト版についても作成中である。

委員：従前の計画に新たに追加した取り組みは何か。

事務局：市の独自事業である「本の杜への招待状」事業、数値目標の設定、アンケート結果や全国・県・市の数値のグラフ化、外国籍の子どもへの読書活動支援等である。

委員：アンケート調査の配布先はどこか。

事務局：参考資料中の活動施設一覧に記載のある施設すべて（放課後児童クラブ、児童館等、在学・在園児が重複する施設は除く。）である。策定委員の意見により、今回初めて市内高等学校についてもアンケートを実施した。

委員：アンケート先にこの結果は配布するのか。

事務局：この計画は、子ども読書活動にかかわるすべての機関が協力して取り組む

ことを理解いただくためにも、すべてのアンケート先にプランを配布する。また、市民に一目で計画推進について理解してもらえるようダイジェスト版を作成中である。第3回(1月開催)の策定委員会の場で、ダイジェスト版の作成が委員から提案され、第4回(2月開催)で示した(案)が文言の表現が固いという理由で承認されなかったため、この場に提出することができない。

会 長：ダイジェスト版は全戸回覧する予定か。

事務局：計画書は、図書館、学校等、教育関係の公共施設への設置になるが、ダイジェスト版については、できるだけ多くの市民の目に触れる施設に設置しようと考えている。策定して安心しているのではなく、ここからがスタートだという気持ちで、多くの人に周知していきたい。

委 員：全国・県・市の朝読書実施状況のグラフの中で、全国の色が間違っている。

事務局：修正する。来年度第1回の協議会では、きちんとした計画書及びダイジェスト版をお渡しすることができる。

(2) 平成30年度主要事業(案)について

*資料をもとに事務局より説明。3月議会での承認前のため、予算の詳細については、来年度第1回の協議会で説明する。

(3) 各図書館の近況報告について

*各図書館で行った事業、今後予定している事業について資料をもとに説明。

委 員：金田一春彦記念図書館で実施している八ヶ岳グリーンヒルでのおはなし会は、どのような形で行っているのか。グリーンヒルの協力があるのか。

事務局：ロビーで、一般を対象に行っている。グリーンヒルからの要請を受けて、年に数回、宿泊客の夕食後の時間帯で45分間行っている。

会 長：このほかにデイサービスセンターなどでも金田一図書館では出前のおはなし会を実施しているが、こういった場でこそ朗読ボランティアの協力を得るべきではないか。

事務局：事業報告を見ていただくとおり、図書館の事業が非常に多く、幅も広く、職員の負担も大きい。選書など本来の業務にかけるべき時間に影響が出たり、企画数が多いと一つの企画にかけるべき時間が不十分であったりする。事業の見直しも検討しているが、ぜひボランティアの方たちと連携し、協力をいただく中でやって行きたいと考えている。

委 員：明野図書館で開催しているブックカフェはどのような形でやっているのか。

会 長：読書会のように一冊のテーマ本について話し合うのではなく、お茶を飲み

ながら、自分の好きな本やジャンルについて気軽に語りあう会で、昼間の時間帯に大人を対象にしている。紹介された本を、その場で予約して借りていくことができるし、今まで借りたことのなかったジャンルの本に興味を持つことにもつながるため、非常に良い企画だと思う。また、図書館内ではなく、図書館が入っている総合会館の一室を借りて行っている。お茶・茶菓子代は、300円の会費の中からの支出である。

会 長：明野図書館では、明野小学校の朝の読み聞かせに多く行っている。

図書館職員：この冬は、担当ボランティアの方の体調が悪く、代わりに出ることも多かった。

会 長：図書館開館前の時間に行かなければならないので、職員に負担ではないか。

図書館職員：通常より1時間ほど早くなるので、あまり回数が多くなると負担になるが、学校と相談しながら日程の合う日に入っている。

以上